

こどもたちの学力向上に向けて、家庭での基本的な生活習慣の確立や家庭学習の定着をめざし、大切な情報を発信します。

中学生の気になる SNS事情

中学生のスマートフォン（以下：スマホ）所持率は7割超。スマホ以外でもインターネットを利用していいるという12歳～15歳はなんと9割以上です。最近はこのインターネットでのやり取りが原因で、トラブルに巻き込まれるケースは少なくありません。大人が見えないところでいったい何が起こっているのか、中学生をもつ保護者は理解しておく必要があります。

SNSとは…

Social networking service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）SNSとは、中学生の多くが活用しているコミュニケーションツールの総称です。誰でも・気軽に・つながることができる。便利な反面、個人情報が意図していないところで広まってしまう怖さも知っておかなければいけません。

トラブルになる CASE

グループチャットでのトラブル

クラス・部活動・仲のいいメンバーでグループを作り、連絡や情報交換をしますが、そのグループに入れないことで孤立してしまうケースや、顔が見えないことによってうまく伝わらないケースがあります。「返信が遅れた」それだけの理由でいじめにつながってしまうこともあります。

未承認画像の公開・個人情報流出

友達と一緒に撮った画像を、友達の許可なく公開してしまうことは、肖像権の侵害にあたります。写っている人が、公開を認めているのかどうか、必ず確認しなければなりません。子どもでなくともできていない場合があります。



SNSでの誹謗中傷

匿名性が高く、悪口を言いやすいSNS。しかしこれは相手を傷つけるだけでなく刑法第230条の名誉毀損罪・刑法第231条の侮辱罪・刑法第233条の信用毀損罪、業務妨害罪・刑法第222条の脅迫罪・刑法第223条の強要罪にあたる可能性があり、民法第709条を根拠として損害賠償が発生する可能性もあります。



動画の配信による著作権の侵害や個人情報の流出

簡単に動画を配信できてしまいう時代ですが、著作権を侵害してしまったり、個人情報の流出によって思わぬ事件・事故に巻き込まれてしまう可能性もあったりします。一度配信されたものは消すことはむずかしい、また誰の手に渡ってしまうかもわかりません。

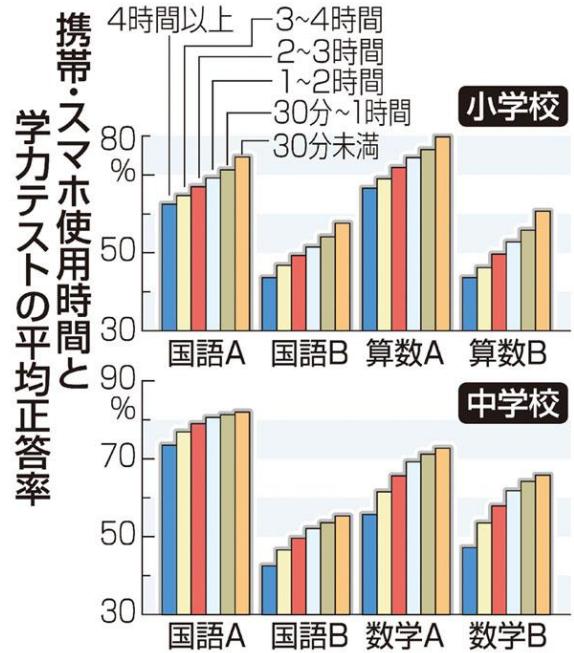


スマホと学力

長時間のスマホ使用で平均正答率低下!?

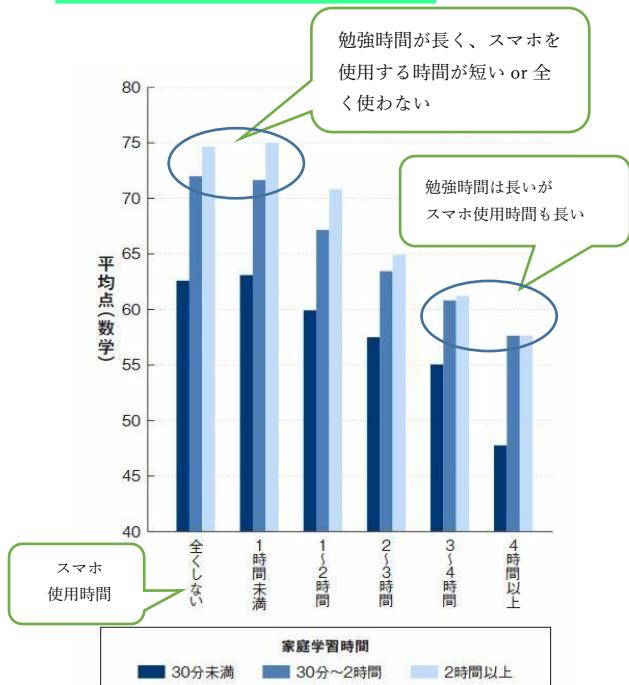
右の表は、全国学力学習状況調査による、生徒質問紙の内容とテストの平均正答率をクロス集計で文部科学省が発表した「携帯・スマホ使用時間と学力テストの平均正答率」のグラフです。

これを見ると、スマホを使う時間が長ければ長いほど平均点が下がっている傾向にあるということがわかります。これは小学校でも中学校でも同様の結果が出ています。確かに、スマホを長く使うほど勉強時間が減るということが考えられます。ところが、「じゃあ勉強時間を増やせばいい」という簡単な問題ではないことが研究で明らかになっています。



出典：全国教育問題協議会 HP より
「平成 26 年度全国学力学習状況調査のアンケート調査結果と平均正答率の比較」
(同年 8 月 25 日文科省発表)

勉強時間との相関



出典:『スマホが学力を破壊する』川島隆太著(集英社新書)より
「平成 25 年度仙台市標準学力検査、仙台市生活・学習状況調査の結果」

スマホを使うと2時間の学習効果が消える!?

東北大学・川島隆太教授による脳科学の研究では、勉強時間が長くても、スマホの使用時間が長ければ点数は低下してしまうということが示されています。家で2時間以上勉強しても、携帯やスマホを3時間以上触っていると、その学習効果がムダになってしまふほどであるとされています。

グラフを見てわかることは、自宅学習時間が長いほど成績が良いという安易なことではなく、携帯・スマホを使う時間が長くなると学習の効果が点数に表れていないという事実があることです。

2時間以上勉強したのにそれが全部無駄になってしまったこともあるのです。

おうちでルールを！

スマホは使い方さえ間違えなければとても便利な道具です。日常的な連絡ツールとしてだけではなく、緊急時や災害時の連絡手段としても役に立ちます。良い道具にできるかどうかは、使う人次第です。だからこそ大事なのは各家庭でスマホを使うためのルールを作ることです。また、ペアレンタルコントロールも、有効な手段です。ペアレンタルコントロールを活用し、保護者がスマホの利用状況を把握して安全管理を行って、周りの大切なものを守ることができます。難しいことではありません。まず、実践できることから始めてみましょう。